



2026.01.12







令和八年

20歳のつどい

成人年齢が18歳に引き下げられたことを受けて羽曳野市では3年前から「20歳のつどい」として式典を開催しています。

今年は1,080人が20歳を迎えました

会場では家族や友人らから花束やバルーンアートを受け取る参加者もみられ、あたたかい空気に包まれていました。



晴天に恵まれた1月12日、タケダハムはびきのコロセアムで「20歳のつどい」が開かれ、振り袖やはかま、スーツ姿に身を包んだ若者が20歳の節目を迎えました。

式典では山入端市長が「羽曳野で生まれた思いやりの心と人とのつながりを大切にしながら、自分を信じ、夢に向かって一歩ずつ進んでください。」と祝いの言葉を送りました。

登壇者の篠原和之心さんは「困難に直面し、迷い立ち止まることがあっても、『花よりも花を咲かせる土になれ』という言葉に胸に刻み、誰かを支えられる存在であり続けたい。互いの違いを認め合い、思いやりをもって人と向き合い、社会や地域に静かに貢献できる大人へと成長していくことを誓います。」と誓いの言葉を述べました。

20歳という人生の節目を迎えられた皆さま、並びにご家族の皆さまに心よりお祝いを申し上げます。



当日サブアリーナでは、当時の小・中学校の恩師との交流も行われました!



舞台登壇者の皆さん。お疲れ様でした!



登壇者の中からお二人に、現在がんばっていることや将来の夢についてお話いただきました。



羽曳野市で体育の先生になりたい

篠原さん

野球好きの父の影響で、幼いころから石川でキャッチボールをして育ちました。現在も大学の準硬式野球部に所属しプレーしています。

体育の教員を目指すきっかけとなったのは峰塚中学校時代に出会った2人の先生でした。「困っている生徒に親身になって寄り添っているところ。大きな背中であんなにみんなを引っ張ってくれたところ。」にあこがれ、自分も同じように時にきびしくも愛のある先生を目指し日々頑張っています。

将来は羽曳野市の中学校で体育指導を通して子ども達に夢を与えられる存在になりたいです。

メイクの世界で自分のブランドを立ち上げたい

濱口さん

私はメイクをより深く専門的に学ぶため、韓国の4年制大学へ進学しました。小学生の頃からメイクが好きで、中学時代に韓国ドラマやアイドルの美しさに魅了されたのがきっかけです。

大学では、技術だけでなく皮膚の構造や筋肉などの理論も幅広く学んでいます。当初は言葉の壁に苦労し挫折しそうにもなりましたが、諦めずに勉強を続け、今はピザ屋でアルバイトもこなしています。

将来はアイドルのメイクアップアーティストとして活躍し、最終的には自分の化粧品ブランドを立ち上げることが最大の目標です。



参加者の生まれた年(平成17年)話題になったできごと

- 日本プロ野球 セ・パ交流戦が開幕
- 愛知県で「愛・地球博」が開幕
- 宇宙飛行士 野口聡一氏がスペースシャトル「ディスカバリー」で宇宙へ
- ドラえものの声優が一斉交代

【この年のヒット曲】

- ・青春アミーゴ (修二と彰) ・さくら (ケツメイシ)
- ・* ~アスタリスク~ (ORANGE RANGE) など

